

メアリー・バーラ

ゼネラル・モーターズCEO

GM初の女性CEO 危機を乗り越え大変革に挑む

経営破綻後の「最悪のタイミング」で CEOに抜擢される

20世紀初頭に米ミシガン州で創業、かつては世界最大の自動車メーカーとして君臨した米ゼネラル・モーターズ（GM）。しかし、1970年代以降は輸入車との競争が激化し、その繁栄にかげりが見え始める。2009年にはリーマンショックのあおりを受けて経営破綻し、一時国有化された。そんなGMの「再建」を託されたのが、GM初の女性CEOとなったメアリー・バーラ氏（63歳）だ。

米主要企業の経営者団体「ビジネス・ラウンドテーブル」で2023年末まで議長を務めていたバーラ氏は、2024年の米フォーブス誌「世界で最も影響力ある女性100人」で5位にランクインするなど「ガラスの天井」を打ち破った女性経営者としても注目を集めている。



2021年、GMはイメージ刷新を図りロゴを変更

1961年、GMのお膝元である米デトロイトに生まれ、父親はGMの金型工だった。彼女もまた、かつてGMが経営していた職業学校卒業後に同社に入社し、品質検査員として働き始める。1988年にはMBA取得のために、GMから奨学金を得てスタンフォード大学に入学し、以降は幹部候補として再入社後、グローバル製造部門、人事部門、製品開発部門、サプライチェーン管理部門などのトップを歴任し、頭角を現していく。

既存事業の立て直しと 新技術への対応に注力

バーラ氏が新CEOとなった2014年当時、GMは前年に国有化が解消されたばかりだった。加えて、就任直後にシボレー・コバルトなどの大量リコールにも直面する。逆風の中、冷静に事態の收拾にあたった手腕は高く評価された。

こうした危機は、逆に古い企業文化を変革するチャンスともなった。リコール問題を乗り切ったバーラ氏は、「新生GM」を目指して奔走することになる。2019年には北米5工場の生産を停止し、新たに電気自動車（EV）や自動運転車（ロボタクシー）などの次世代技術に経営資源を集中させていく。

評価が高いのは「決断力」だ。不採算事業を次々と整理し、大胆な事業再編を推し進めた。中国勢などの勢いに押されつつも、2024年の新車販売台数は世界第4位を堅持する。

トランプ関税なども影響し、CEO就任から10年を超えた今も難しい舵取りを迫られるバーラ氏。改革の目玉であったロボタクシー事業からの撤退は賛否両論だが「見切り巧者」という見方もある。「100年に一度の変革期」と言われる自動車業界にあって、彼女の「次の一手」は常に注目されている。



2025年のデトロイトモーターショーの様子

写真: GENERAL MOTORS/AFP/アフロ、AP/アフロ

Profile めありー・ばーら 1961年生まれ。1985年にGMに入社し、エンジニアとしてキャリアを積む。1988年、GMの奨学金を得て米スタンフォード大学に入学し、MBA取得。エンジニアリング関連部門、人事部門などのトップを経て2014年より現職。

主な参考文献: The Wall Street Journal、日経 Automotive、日本経済新聞、Forbes JAPAN ほか